

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調整費

事業名 伝統的建造物等技術伝承促進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部県民文化局 文化伝承課 伝統文化係 電話番号：058-272-1111(内3145)

E-mail：c11146@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,200 千円 (前年度予算額： 3,200 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,200	1,374	0	0	0	0	0	0	1,826
要求額	3,200	1,376	0	0	0	0	0	0	1,824
決定額	3,200	1,376	0	0	0	0	0	0	1,824

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

県内の伝統的建造物を着実に未来に継承していくには、伝統的技法を熟知した職人・技術者による維持補修が欠かせないが、地域においてはそうした人材が少なくなっており、伝統的技法の伝承が喫緊の課題となっている。加えて、伝統的技法の伝承においては、建造物に限らず、それらを支える「道具」の確保も課題となっており、今や道具の生産事業者が限られ、専門道具の多くを県外から調達している中で、今後10年～15年先を見据えた対策が必要である。

(2) 事業内容

森林文化アカデミーが中心となって、伝統的技法を支える「道具」の使用者、生産者、仲介者等の関係者によるパネルディスカッションの開催や、SNS等を通じた情報発信を行うなど、「道具」の現状や今後のあり方について考える機会を創出する。また、国史跡「高山陣屋」において、伝統的建造物の維持補修に関する研修会を開催するなどの人材育成を進める。

(3) 県負担・補助率の考え方

本県の文化芸術資源の「多様な価値」の創出につなげる取組みとして、県の負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額（千円）	事業内容の詳細
旅費	808	費用弁償、業務旅費
委託料	1,500	調査業務、研究発表会委託
その他	892	講師謝金、事務消耗品ほか
合計	3,200	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略
施策編 3 (1) 地域の魅力の創造・伝承・発信

(2) 事業主体及びその妥当性

県内に残る伝統的建造物に係る技術を確実に保存・伝承するため、技術を持った人材の育成及び、それを支える「道具」の伝承の在り方を調査研究する事業であり、県が事業主体となることは妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

県内の伝統的建造物等を着実に保存・継承していくため、伝統的技法を熟知した人材を育成するとともに、それを支える道具について調査し、その成果をパネルディスカッションや連携会議にて発信・共有を図る。R 5年度までに、道具の安定需給にむけた今後の展開の方向性を見出す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R 5)	達成率
①パネルディスカッション等参加者数			100	100	100	

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和 3 年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和 4 年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>県内の伝統的建造物の伝承に向けた事業であり、県が実施することが妥当。また、伝統建築を継承する技術は、ユネスコ無形文化遺産への登録を目指しているものであり、その技術伝承への支援にもつながる当事業の必要性は極めて高い。</p>
<p>・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価)	
<p>・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	<p>実施にあたっては、有識者意見等を踏まえ、効率的に実施する。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 伝統的建造物の維持補修を行う伝統的技法を熟知した人材が少なくなっており、また、それらを支える「道具」の調達先も限られてきており、その対策が必要である。鉄の道具以外においても道具の現状把握が必要である。道具の問題は、県内だけで解決できる問題ではなく、国全体で考えなければならない問題であるため、国（文化庁）との連携が必要である。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県内の伝統的建造物を含む文化財や工芸品を着実に未来に保存・継承していくために、道具の伝承及び安定需給、人材育成に向けて、長期的視野に立った取組が必要である。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	【〇〇課】